

「豊中製再生肥料」で育って



スコップで丁寧に土をならす子どもたち（豊中市原田中で）

食育考えるイベント

市民ら野菜の種まき

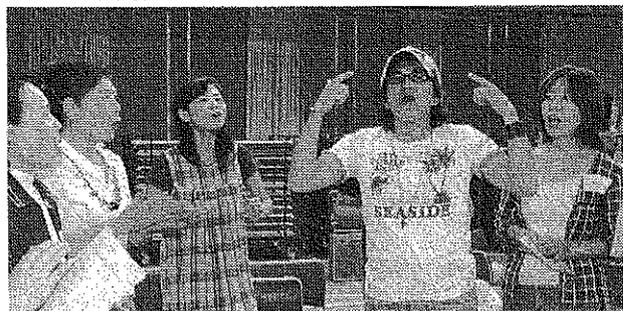
食育について考えてもらおうと、給食の食べ残しなどを再利用した堆肥を使った野菜作りイベントが5日、豊中市原田中の「市緑と食品のリサイクルプラザ」であり、親子23組、53人がダイコンの種まきなどを体験した。

市では、2か所の給食センターから出た調理くずや食べ残しなどを、同プラザでリサイクルした有機肥料「豊肥（とよっぴー）」を年間約180トンを担当するNPO法人「花と緑のネットワークとよなか」（同市曾根南町）が、今回のイベントを企画

子どもたちは、有機肥料を混ぜ込んだ畑で、ジャガイモの植え付けにも挑戦。芽が上に向くようにそっと土中に置き、母親らに手伝ってもらいながら、スコップで丁寧に土をならした。

11月下旬に収穫予定で、市立上野小2年の井原海月君（7）は「大きくなるのが楽しみ」と笑顔。父親の学さん（43）は「体験などが分かりやすい形で、子どもに自然や食育について教えていきたい」と話していた。

子育てママゴスペル挑戦



母親に歌う楽しさを知ってもらおうと、子育て中の女性らを対象としたゴスペル講座が、豊中市の中央公民館で始まった。関西を中心に活動する約500人の聖歌隊「ビューマンノーツ」を率いるシンガーソングライター、寺尾仁志さんが講師となり、ゴスペルの基礎知識や発声法を学んだ。

母親に歌う楽しさを知ってもらおうと、子育て中の女性らを対象としたゴスペル講座が、豊中市の中央公民館で始まった。関西を中心に活動する約500人の聖歌隊「ビューマンノーツ」を率いるシンガーソングライター、寺尾仁志さんが講師となり、ゴスペルの基礎知識や発声法を学んだ。

保育士、4歳児に体罰

豊中の私立園胸と腹つねる

大阪府豊中市の私立「庄内たちばな保育園」（北島孝昭園長）の女性保育士が、4歳の園児の胸や腹をつねる体罰を与えていたことが6日、分かった。保育園側はすでに保護者向けに説明会を実施し謝罪。保育士は退職した。市は改善策を盛り込んだ報告書の提出を求めている。

豊中市と庄内たちばな保育園によると、4歳児クラスをこぼしたことから、男児に後片付けをするよう指導。その過程で男児の胸から腹にかけて、服の上から両手でつねった。男児は5カ所に赤いあざが残ったという。保護者が体のあざに気づき、翌日に保育園に問い合わせたところ、保育士が体罰を認め、「感情が高ぶってやってしまった」と説明したという。保育士は退職を申し出て、8月末で

後にも通園している。保育園は保護者に謝罪するとともに、4歳児クラスの担任を別の保育士に交代。すべての保護者を対象にした説明会を開き、改めて謝罪した。退職した保育士は同保育園に就職して3年目で、今回はじめてクラス担任を任されたという。

北島園長は「許されるべきことではない。全力で信